

わ

輪

っしょい!

いちのせき
協働ニュース

2018年2月

vol.15



幸せあふれる行列で、
地域が笑顔に
包まれます
(平成29年11月に行われた
厳美のむかさり)

厳美地域活性化推進協議会

会長：小岩 清光

お問い合わせ先
電話：0191-29-2205
厳美市民センター

厳美地域づくり計画の概要

当協議会は平成7年6月に、地域生活がより一層活発化し、地域の住民が生きがいをもって明るい地域づくりに寄与することを目的に厳美地区全域と霜後、達古袋地区の住民により設立され、様々な活動を行ってきました。

平成29年3月に、「もちと湯の郷 厳美街道」をスローガンに掲げた地域づくり計画書を策定し、短期間で取り組むべき課題として、まずは健康長寿を図るためにいきいき100歳体操のグッズを独自に購入し、住民有志による毎週火曜日の定例開催に漕ぎつけました。

また、今後の活動としては、温泉施設との連携によるイベント開催や厳美溪バイパスの街路樹ポケット（歩道の植え込み）の美化、地元の史跡などを紹介するボランティアガイドの養成等を考えています。

むかさり行列と小正月行事

当協議会の地域文化伝承活動として、「むかさり(花嫁道中と婚礼の儀式)」と「小正月行事(繭玉ならし、きんこならし^(※1)、おさくだて^(※2))」があります。どちらの行事も昔ながらの文化を後世に伝えるため、地域が一丸となり取り組んでいます。今後も広く情報を発信し、県内外から多くの観光客が訪れる、活気のあるイベントとなるよう取り組みます。

(※1) 削り花などの飾りを栗の木の枝先に飾り豊作を祈願する農村の伝統的な風習

(※2) 田んぼに見立てた雪原に稲わら・豆がらを立てて豊作を祈願する農家の伝統行事



婚礼の儀式
婚礼の儀式で雄蝶(男兒酌人)から
三三九度の盃を受ける花嫁



きんこならし
自分で皮を削って作ったきんこを
栗の木に飾る、きんこならし

事務局職員から一言(鈴木こずえさん)

栗駒山や厳美溪を抱くふるさと厳美が元気になるよう、地域の皆さんと一緒に活動してまいりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

いちのせき協働ニュース 輪っしょい!の発行にあたって

本紙では、特色ある地域協働の取り組みや、市民センターの「熱い」取り組みなどを紹介します。

*地域協働とは、地域の自治会、消防団やPTAなど各種団体、市民、民間事業者(企業)等の多様な主体が、一定の地域において互いに、又は行政と、地域の特性や課題などを共有した上で、役割分担しながら、地域課題の解決や地域の実情に沿って地域づくりを進めるしくみです。



興田地区振興会

会長：伊東 三四司 Facebook「興田地区振興会」

問い合わせ先
電話：0191-74-2201
興田市民センター



子どもたち向けの事業「ハイテクペイゴマ大会」

「未来へつなぐ 住みよい興田」をめざして

当振興会では、コミュニティ、教育文化、健康福祉、産業振興、安全環境の5つの専門部会に分かれて、地域づくり計画に沿った事業活動を展開しています。その中から産業振興部会の様子を紹介します。

エゴマの美容と健康成分に着目

産業振興部会では、平成28年度から特色ある地域資源をどのように掘り起こして広めていくかを議論しました。その中で、当地域で昔から栽培されていたエゴ

マに着目し、まずは地元の詳しい方に栽培方法などをお聞きし、29年度から約3アールの休耕田で試験栽培を始めました。今まで荒れていた土地を畑にして、看板等を設置したことにより、道行く方々の関心も高いようです。生育も順調で、10月中旬に収穫期を迎えたものから順次刈り取り、ビニールハウスを借りて調整作業を行った後に大東地域内の搾油所にて搾油し、新年交賀会にてお披露目しました。来年度はさらに地域内に広げていきたいです。



地域の方々も参加したエゴマ苗植え

「知らなかった」から「参加したよ」に

興田地区振興会が地域協働体として活動を始めて3年目になりますが、住民の認知度はまだまだ低いのが現状です。多くの方に興田地区振興会を知っていただき、様々な事業に関心を持ち、参加してほしいと思っています。月1回発行の広報紙の他、紙面では伝えきれない地域内の出来事や情報をFacebookでも随時発信していますのでご覧ください。



看板とノボリ旗で興田地区振興会の活動をアピールしています



室根まちづくり協議会

会長：三浦 幹夫 電子メール：murome-machikyo@helen.ocn.ne.jp

問い合わせ先
電話：0191-64-2347
室根市民センター



室根神社特別大祭PR漫画表紙



漫画一部抜粋

会長からひとこと



室根神社特別大祭は室根地域を中心に岩手県南部～宮城県北部に神役氏が存在し広範の方々から信仰を集める、全国でも特異な祭りの形態であり、昭和60年、国重要無形民俗文化財に指定された室根地域で最も価値ある地域財産になっています。

小中学生にこのPR漫画を読んでもらい、益々郷土愛を深めていただけたら幸いです。

地域の宝「室根神社特別大祭PR漫画」発刊

当協議会は平成29年4月から室根市民センターの指定管理を受け、施設管理業務や、地域づくり事業を行っています。

当協議会が実施した全住民対象のアンケート調査の結果、後世に残したい地域財産として、室根神社特別大祭が第1位に輝きました。

本祭は室根地域住民の心の拠り所となっている祭りであり、平成30年は室根神社勧請1300年を迎えます。このたび、後世に伝えることを目的に本祭の起源、内容、各神役の役割等の概要を紹介する冊子を作りました。

PR漫画ワーキンググループの活動

PR漫画作成にあたっては、文化交流部会から7名を選出し「室根神社特別大祭ワーキンググループ(WG)」を立ち上げ、岩手県出身・滝沢市在住の「そのだつくし」さんに作成を依頼しました。

室根神社特別大祭の神事の漫画化は、難しい表現、セリフ等があるので、読みやすいものになるようそのださんも交え、WG会議で検討を重ねました。

平成30年1月19日には、小中学生を対象に、そのださんの記念講演会を実施し、子どもたちは興味津々でした。



WG会議の様子

きらり★輝く

FILE.
2

きらりと輝く地域づくりに
取り組んでいる方々や団体等を
ご紹介します。

NPO法人 一関のなかなか遺産を考える会

【お問合せ先】 NPO法人一関のなかなか遺産を考える会
理事長：阿部 眞昭 電話：0191-29-2511
Facebook「一関のなかなか遺産を考える会」



★旧達古袋小学校を地域のシンボルに

閉校後取り壊される予定となっていた旧達古袋小学校を保存するべく、平成26年にNPO法人一関のなかなか遺産を考える会を設立。同校は全長119メートルの廊下を有する木造平屋建ての建物で、自然と調和した美しい景観を有しています。そんな景観を守りつつ、地域内外の人々に知ってもらえるよう、校舎を活用した「朝顔早朝茶会」や「なかなかZ-1グランプリ」などの各種イベントを開催しています。達古袋のシンボルとなるよう“楽しみながら”校舎を活用していきたいと思ひます。

♥なかなか Z-1グランプリ

平成29年11月5日、旧達古袋小学校を会場に雑巾がけ競争「なかなかZ-1グランプリ」を開催。150人の観衆のもと、県内外から集った約60人の選手が長〜い廊下を駆け抜けました。同校が思い出として語られる場所になることを願っています。

ほうりゅう 豊隆秋祭り実行委員会

【お問合せ先】 豊隆秋祭り実行委員会
実行委員長：及川 義昭 電話：0191-82-2425

★地域の人々の笑顔が集まる秋祭りに

老松地区で途絶えてしまった秋祭りを復活させようと、平成28年に地元の若者が集まり「豊隆秋祭り実行委員会」を結成。秋祭りを地域住民の語らいの場にしたい、子どもたちの心に故郷の光景を描きたいとの思いを込めて、平成28年10月に第1回目の豊隆秋祭りを開催しました。先輩方に助言をいただいたり、余興で盛り上げていただいたり。子どもたちにも出店のお手伝いをしてもらうなど手作り感満載の秋祭り。この先も試行錯誤をしながら、孫子の代までも続くお祭りを目指します。



♥ふるさと会員募集中!

老松を離れた人も当日スタッフとして活躍しています。お祭りの日は、さながら同級会のようなです。

NPO法人 北上川サポート協会

【お問合せ先】 NPO法人北上川サポート協会
電話：0191-36-5666
ホームページ：<https://kitakamigawa-sp.jimdo.com/>



北上川クリーン大作戦!



★川好きが集まる〜川を通じた交流〜

一言でいうと私たちの団体は「川好き」の集りです。一関市川崎町を流れる北上川、砂鉄川を中心に「川とのふれあい」をテーマに事業を展開しており、会員は現在46名。20代から80代の幅広い年齢層となっています。

活動は、5つの分野があり、その中で「自然学習活動」は欠かせない事業として取り組んでおり、北上川カヌー体験は、年6回〜8回ほど実施。年間300人ほどの皆さんが北上川を満喫しています。また、川っ子祭りは、個人が川遊びを体験できる貴重な場となっています。

♥継続と挑戦

設立当初から力を入れて活動している「環境保全活動」として、川のゴミ拾いを行っています。船を活用してのゴミ拾いには会員はもとより多くの団体、一般の皆さんが参加しています。また、自分たちの挑戦も忘れません。環境学習のための「手作り紙芝居」、水辺周辺の活用のための「手作りピザ窯」、竹を活用しての「竹灯り」など様々なことにも挑戦しています。

あなたの参加が地域づくりへの第一歩。地域への参画を通じて、魅力あるまちづくりを進めていきましょう!

第4回 市民センターの今、ココが熱い!

藤沢市民センター編

今回の「ココ熱」①

まちづくりチーム「FEST」



企画会議で意見を出し合うFESTのメンバー

「FEST」とは

藤沢町住民自治協議会・活力あるまちづくりチーム「FEST」は、少しでも藤沢地域の活性化を図ろうと、藤沢地域の20～40代の若者が集まって結成されました。

この名前は、藤沢の「F」やEnjoyの「E」などを引用し、Festivalの意味を加えて、チーム名としました。

主な活動は、毎月開催の会議で地域活性化のために自分たちに何が出来るか話し合うほか、地域の若者が参加できるイベントを企画・実施しています。

藤沢まちあかり事業

平成29年12月、一関市商工会議所青年部のみなさんと協力して、藤沢市民センター周辺で「藤沢まちあかり事業」を行いました。約8,000個のイルミネーションを飾り付け、参加した子どもたちによるカウントダウンで、一斉に点灯。子どもたちの歓声を耳にしたメンバーは、今後も子どもたちが参加できるイベントを継続して開催していきたいと決意を新たにしています。



イルミネーションが市民センターの入口を彩ります

リーダーに聞きました



おおさき まさき 大住 正樹さん
(藤沢町黄海)

これからも、藤沢の若い人たちが集い、交流を深められる事業をどんどん展開していきたいと思っています。

少ないメンバーだけでは実施できないこともありますので、藤沢のいろんな団体や住民の皆さんの協力をお願いします。

また、多くの方々にFESTのメンバーとして加わってもらえることを期待しています。

今回の「ココ熱」②

藤沢中学校「プロジェクト7」



プロジェクト7のメンバー

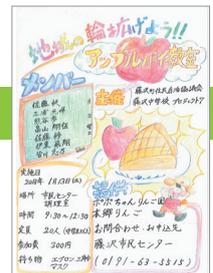
上段左から 伊東飛翔さん、三浦元暉さん、島山翔伍さん、佐藤 快さん
下段左から 佐藤 怜さん、熊谷 歩さん、皆川志乃さん

アップルパイ教室を開催!

平成30年1月13日(土)に地元特産物のリンゴを使った「アップルパイ教室」を開催しました。

参加者募集ポスターの作成から、教室の企画運営・調理指導まで、全て「プロジェクト7」のメンバーだけで行いました。

当日は、13名が参加。終始和やかな雰囲気が進められ、会場となった藤沢市民センター調理実習室は、終日甘い香りに包まれていました。参加者から、藤沢産のリンゴで作ったパイはとてよかったですと話されました。



アップルパイ教室の手作りチラシ



パイがおいしく焼けました

「プロジェクト7」とは

当協議会ですすめている「支え合い事業」として活動している、「プロジェクト7」は、藤沢中学校の3年生を中心とした生徒で構成され、中学生にも地域づくりに参加してもらおうと平成29年6月30日に結成されました。

「プロジェクト7」は、メンバーが7人ということで、この名前に決めました。

メンバーに聞きました



さとう かい 佐藤 快さん
(藤沢中学校3年)

この活動を通して、地域のことを考えてみる事ができました。自分たちで計画からすすめてみて、難しいことや戸惑うこともたくさんありましたが、みんなで協力して成功することができてとてもよかったです。

参加してくれた小学生や大人の方々が、喜んでくれたことがとてもうれしかったです。

このプロジェクトが来年も続いてくれたらと思います。

【お問合せ先】 藤沢市民センター(藤沢町住民自治協議会) 一関市藤沢町藤沢字仁郷12番地5 電話 0191-63-5515
ホームページ: <https://www.dontokoi-f.com/> 電子メール: fujii@dontokoi-f.com facebook「どんとこい藤沢」

